

名古屋能楽堂

十月定例公演

生誕百年 三島由紀夫「能楽」という底流をめぐって

能

「弱法師」(宝生流)
シテ 衣斐 愛

狂言

「苞山伏」(和泉流)
シテ 野村 信朗



金閣はなほ耀^{かが}やいてゐた。あの「弱法師」の俊徳丸が見た日想観の景色のやうに『金閣寺』*
能「弱法師」は三島由紀夫にとってひととき思い入れのある演目のようだ。代表作となる『金閣寺』(1956)の中で触れ、さらに四年後、戯曲『弱法師—近代能楽集ノ内』(1960)を発表した。
日想観とは日没を拝み極楽浄土を観想することだが、太平洋戦争中に少年から青年へと移る時期を生きた彼は、自作では、この夕映えのシーンを空襲の記憶として置き換えてみせる。
能の「難波の致景」と三島版の「この世のおわり」——二人の俊徳はその心眼に対照的な風景を映して舞台を照らす！
三島が手がけたジャンル・主題は多岐にわたるが、ミステリやSFの味わいを持つ小説もある。では狂言からはサスペンス仕立ての『苞山伏』をご紹介。弁当を食べた犯人は誰？ 山伏の不思議な力とは？
*決定版 三島由紀夫全集6(2001、新潮社、269P)

◎年間テーマ連携企画
朗読劇「弱法師」*

三島由紀夫が能を近代的価値観のもとで見つめ直し描いた戯曲『近代能楽集』。本公演ではこの戯曲集の最後を飾った「弱法師」を朗読劇として、能とあわせてご覧いただきます。

*三島由紀夫「弱法師」(新潮文庫刊『近代能楽集』所収)

令和7年

10月19日(日) 14:00開演 (13:00開場)

指定席 4,200円
自由席(一般) 3,200円
自由席(学生) 2,000円

能「弱法師」
撮影：工房 円

8月7日(木)より
前売券発売

番組

◇開演前ショート解説 午後一時四十五分から午後二時
『弱法師』について 内藤 飛龍

狂言 苞山伏 (和泉流)

シテ 山伏
アド 山賊
道行人
野村 信明
藤波 徹
野村 又三郎
伊藤 泰

能 弱法師 (宝生流)

シテ 俊徳丸
ワキ 高安通俊
アイ 門前の者
橋本 愛
松田 幸
高義 幸
山村 友子
後藤嘉津幸
河村真之介
衣斐 正宜
坂口 侑
東川 尚史
朝倉 俊樹
水上 優
内藤 飛龍

地謡

平田 孝成
竹内 正成
能勢 健
鷺野 健
後見
後見
後見

休憩十分

年間テーマ連携企画
朗読劇 弱法師

(演出:いのこ福代)

出演

俊徳 川島
川島 夫人
高安 高安夫人
桜間 科子
チエロ
菅沼 翔也
小熊ヒデジ
寺本久美子
小嶋 隆之
好のこ 福代
いのこ 福代
河井 裕二

終演後アフタートークあり

(午後五時頃終演予定)

◇狂言「苞山伏」(つとやまぶし)

山仕事の疲れから休息を取る山賊(やまがし)と、また長旅の疲れから道中仮眠を取る山伏(やまびし)は偶然にも近くで眠っています。そこへ通り掛かった男(道行人)が、山賊が持つ藁蓑を見つけて盗み喰いします。目を覚ました山賊は藁蓑が無い事に気づいて男を問ひ質しますが、食い荒らされた藁蓑は山伏の枕元に。『苞』とは藁に包んだ弁当の事。現代用語に於いて、惣菜や弁当などをテイクアウトやデリバリーする食事の形態、あるいはその食品を「中食(なかしょく)」と云うようですが、その昔一日二食の朝夕食が中心であった時代、この中間にあたる軽い食事を「中食(ちゅうじき)」と呼び、のちの昼食の慣習定着に繋がってゆきます。食べ物の恨みは何とやら、狂言版『名探偵山伏』の真犯人を炙り出す推理の策や如何に。
(井上松次郎)

◇能「弱法師」(よろぼし)

河内の国高安の里の通俊(つとむ)は、他人の謠言を信じて我が子を追い出してしまいました。不憫に思った通俊は、天王寺で人に施しを行う「施行」を七日間行い、天王寺門前の者(アゲ)が、本日七日目、満願であることを祈りに呼びかけます。そこへ、一人の盲目の若者(シロ)が、つらい身の上を語りつつ、天王寺へやってきました。通俊は弱法師とあだ名をつけられたこの若者に目をとめ、施しを授けます。折しも弱法師の袖の上には梅の花が散り、花までも仏の施しであることを喜びます。さらに弱法師は寺の由来を詳しく語ります。その姿を見るうちに通俊は、弱法師が我が子の俊徳丸であることに気づきますが、人目を憚り、夜になってから名乗ることにし、弱法師に日想観を勧めます。弱法師は盲目になる前に見慣れた景色を思い浮かべて歩き回り、他の人に当たってはよろけて転び、人から笑われるのを恥じ入ります。夜も更け、通俊は父であることを告げると、弱法師は我が身を恥じて逃げようとしていますが、ともに高安の里へ帰ったのでした。この曲の舞台となっている天王寺とは聖徳太子が建立した「四天王寺」のこと。「クセ」と呼ばれる場面では、ご本尊や建築材料のごときまでガイドのように語られています。また、この曲の後半のテーマでもある「日想観」とは入道を見ながら極楽浄土を思い浮かべる仏教修行の一つで、四天王寺ではお彼岸の中日に行われており、極楽浄土と呼ばれる西門から、石の鳥居の中に見える入道を見ながら、弱法師が心で入道を見る場面の地謡「満目青山は心にあり」は名文句です。
(衣斐 愛)

◇朗読劇「弱法師」(よろぼし)

太平洋戦争の空襲による猛火のため盲目となり戦災孤児となった俊徳。戦後15年経ち、育ての父母と実の父母が親権を争い裁判所で調停員のもとに会っている。而夫婦は俊徳に気に入られようと言葉を尽くすが、彼ははややかに親たちを振り回す。何故「弱法師」が現在も上演されるのか。この「弱法師」の背景にある戦争の状況は今、世界全体に蔓延しています。この瞬間でも主人公の盲目の「俊徳」は特別な存在ではないのではないうか。そして、親子の関係、純血のつながり、これからの人とのつながりをどう考えるのかに、つながる内容として届けたいと思っています。「弱法師」という言葉自体は、盲目の乞食がよろぼしとされた姿で歩くことから、そう呼ばれたという説もあるようですが、三島氏は心の根幹を持ってない人間を皮肉に表現したのではないかと捉えています。
(いのこ福代)

「イヤホン・ガイド」

◆能「弱法師」 日本語／橋場 夕佳(東邦高等学校教諭)
英語／奥田小夜子(能楽イヤホンガイド名古屋)

- 開演中の入場については、制限させていただきます。
- 止むを得ず曲目、出演者等が変更となる場合があります。
- 上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外にはご遠慮ください。

十月定例公演事前学習講座

10月4日(土) 14:00~15:30

受講チケット500円

◆能「弱法師」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

※事前学習講座のチケットは、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込み) *前売券発売日 令和7年8月7日(木)

	指定 Reserved	自由 Non reserved	
		一般 Adult	学生(25歳)以下 Student 25 and under
前売 Advance sale	4,200円	3,200円	2,000円

*学生券は25歳以下を対象とします。*未就学児のご入場はお断りいたします。
*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方(付添者1名含む)は400円引きです。(学生券の割引はありません。)
(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088

*前売券発売日当日は、お電話が繋がりにくいことがあります。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387

(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口・土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

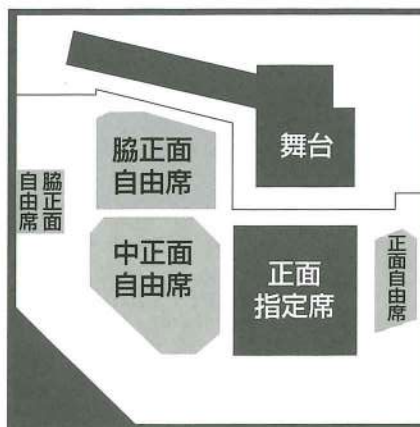
(工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。)

チケットぴあ/Pコード534-853

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引します。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目1番1号

公演についての最新の情報は
名古屋能楽堂ホームページを
ご覧ください。



https://www.bunka758.or.jp/facility/nougakudo/